



おいしさのみなもと

FEED ONE

2017年3月期 決算説明会

2017年5月30日

フィード・ワン株式会社

東証1部 証券コード：2060



会社概要・業界動向

沿革 ～2015年10月に完全統合し、1年半が経過

2014年10月

国内での競争力の強化と海外への更なる展開を目指し、
第一段階として持株会社方式で経営統合を行った
3年以内を目途とした完全統合を予定

2015年10月

統合シナジー効果の最大化、グループ企業価値のより一層の向上を図るため、
持株会社と、子会社の協同飼料・日本配合飼料を合併し、完全統合した



飼料事業

畜産飼料、水産飼料、実験動物用飼料、養蜂飼料、ペットフードの製造・販売

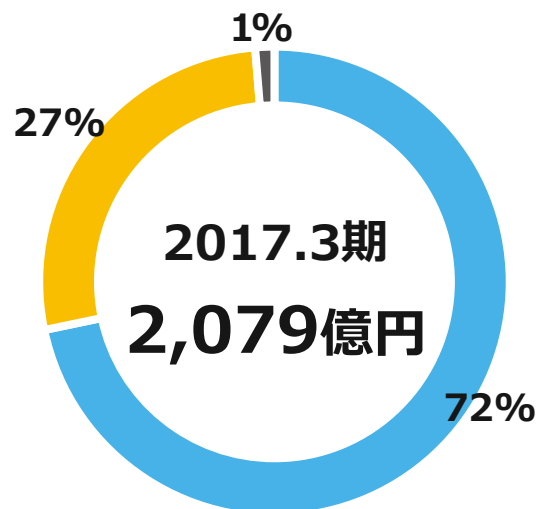


食品事業

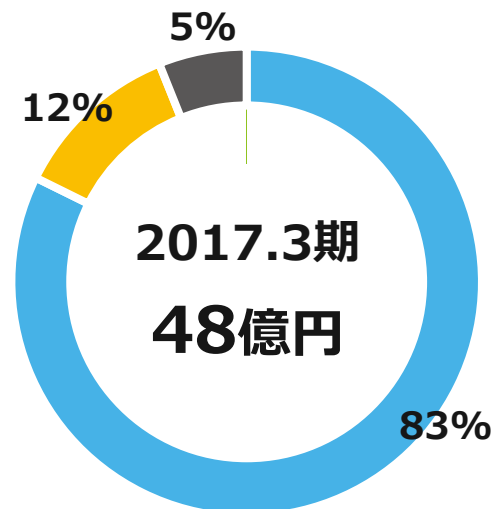
畜・水産物の仕入・生産・加工・販売



売上構成



営業利益構成

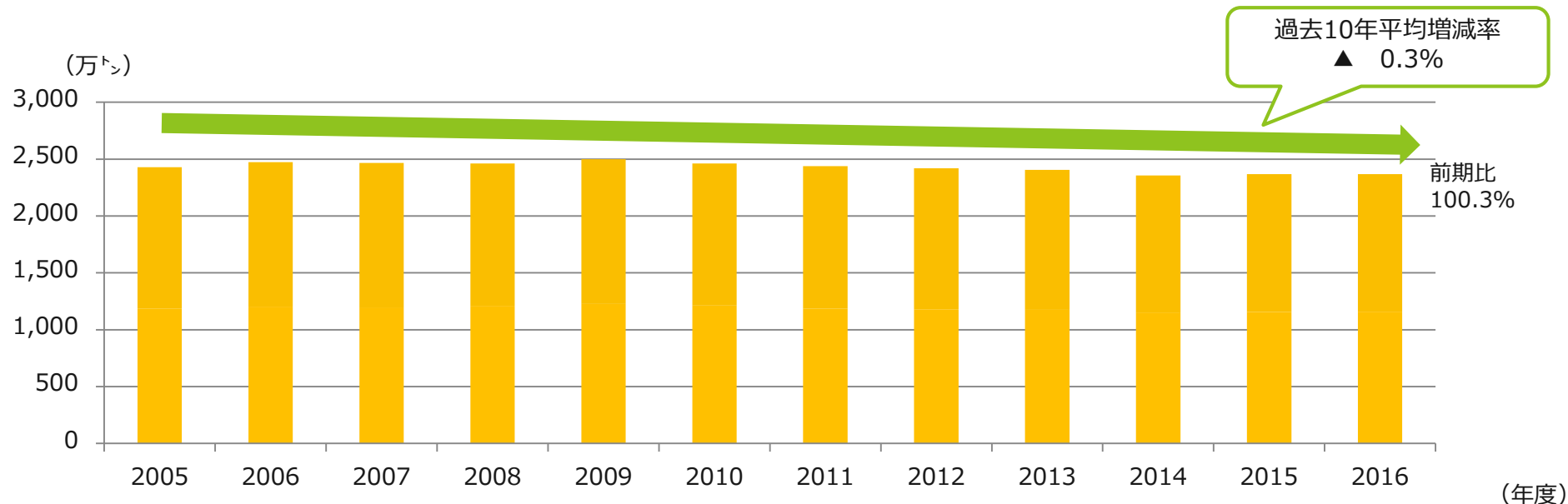


- 飼料事業
- 食品事業
- その他

(注)
構成比は連結調整前の
数字で算出したもの

業界動向① 配合飼料流通量（畜産飼料）

- ▶ 2016年度の流通量は、前期比で+0.3%
（養鶏用+0.4%、養豚用▲0.5%、養牛用+0.5%）



（出所：農林水産省「飼料月報」、一部当社推定）

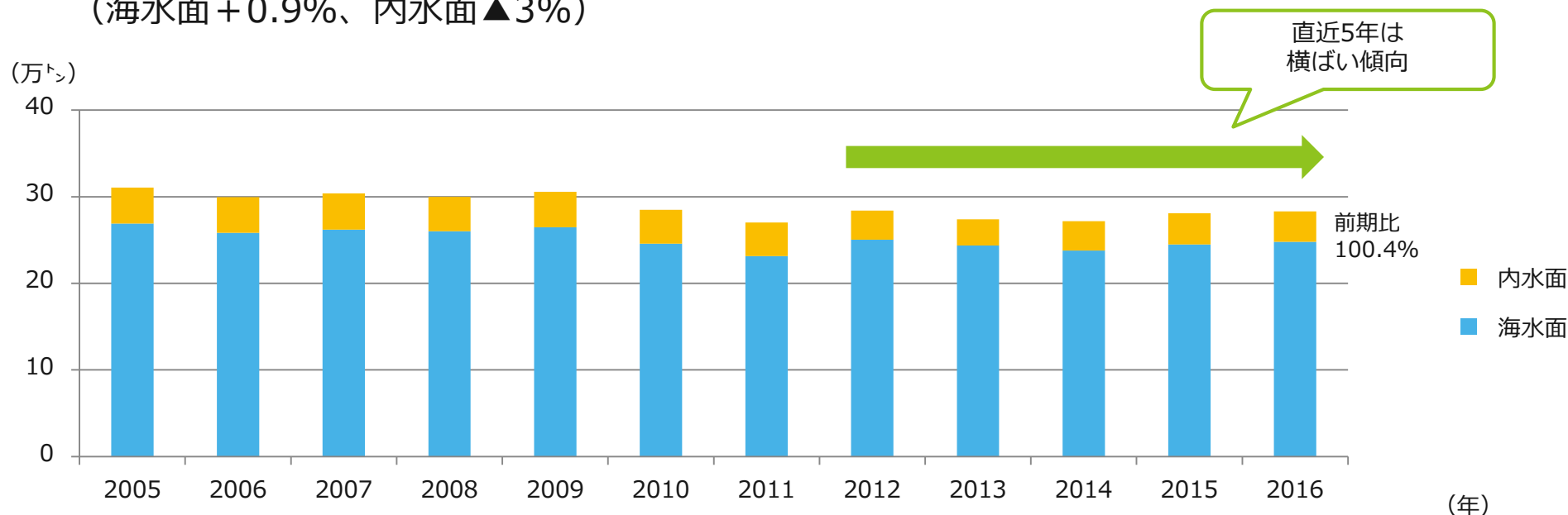
中期的な見通し・・・飼料流通量は緩やかな減少を予想

- （－）人口減少、少子高齢化に起因する食肉消費量の減少
- （－）全ての畜種で戸数減少と寡占化が進み、大規模生産者が増加する
- （＋）インバウンド需要、及び和牛など畜産物の輸出増加

業界動向② 養殖魚生産量

▶ 2016年の生産量は前期比で+0.4%

(海水面+0.9%、内水面▲3%)



(出所：農林水産省「漁業・養殖業生産統計調査」)

中期的な見通し・・・飼料流通量は横ばいを予想

- (-) 人口減少、少子高齢化、魚離れに起因する魚消費量の減少
- (+) 天然魚の漁獲量減少に伴う養殖への期待の高まり (品質安定、周年供給)
- (+) カンパチ、マグロなどの新魚種への配合飼料利用 (生餌からの切替)



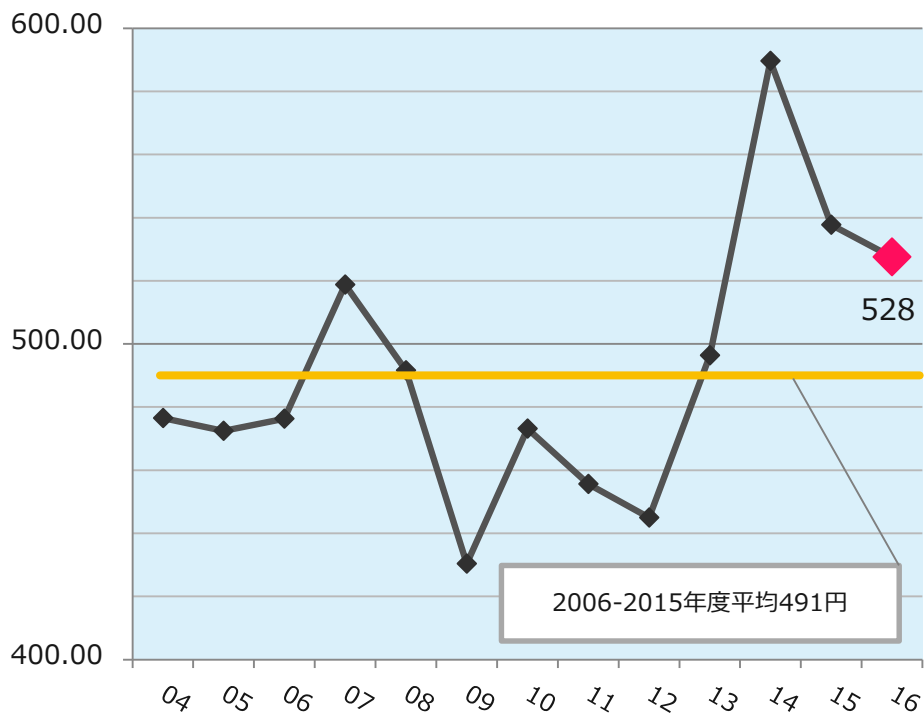
生餌
(イワシなど)



配合飼料

業界動向③ 豚枝肉相場・鶏卵相場（年度別推移）

豚枝肉加重平均価格（東京市場・上）（円/kg・税込）

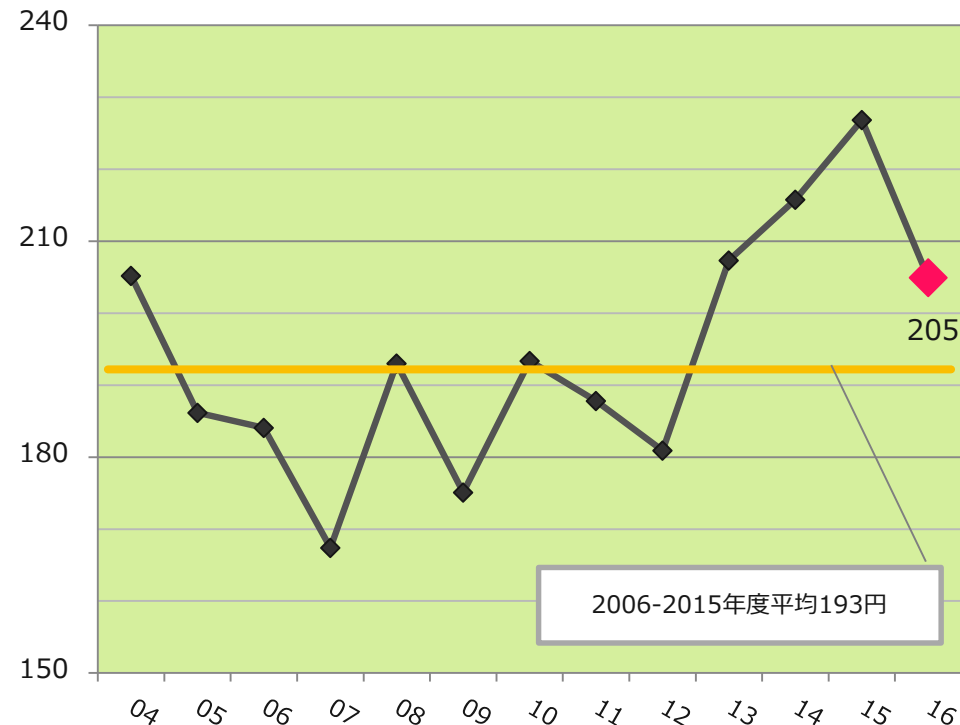


	2006-2015年度	2015年度	2016年度
通期平均	491	538	528

（出所：農林水産省「食肉流通統計」）

- ▶ 2016年度は2014～2015年に流行した疾病（PED:豚流行性下痢）から回復基調となったが出荷頭数は思ったほど伸びず、予想よりも堅調に推移した。
- ▶ 2017年度も前半は底堅い推移を予想。

鶏卵取引価格（全農：東京M）（円/kg・税抜）



	2006-2015年度	2015年度	2016年度
通期平均	193	227	205

（出所：JA全農たまご(株)調べ）

- ▶ 2016年度は大手を中心に飼養羽数が増加し、需給が緩んで例年並みに近づいた。
- ▶ 2017年度は、前年を下回る推移を予想。

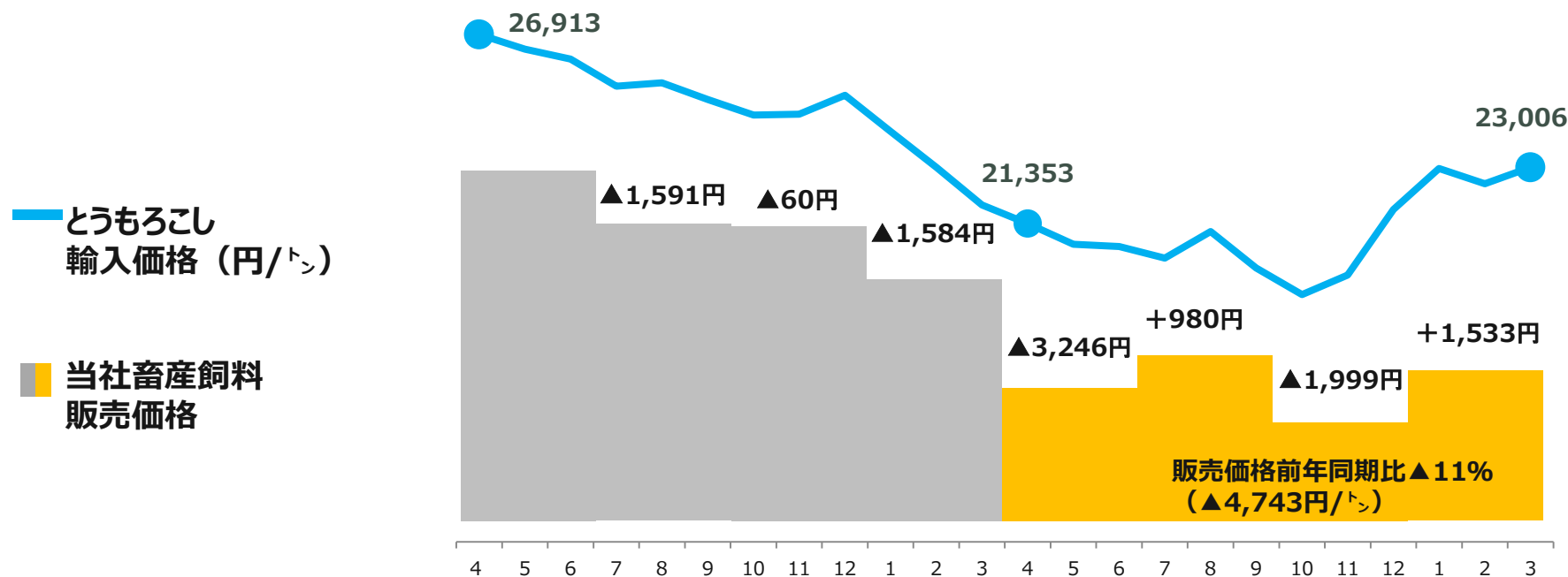
2017年3月期	決算概要	売上高 : 207,920 百万円 (前年同期比 ▲9.2%) 営業利益 : 4,831 百万円 (前年同期比 +38.3%) 経常利益 : 5,131 百万円 (前年同期比 +37.4%)
	事業概況	飼料事業 : 販売数量増加するも、販売価格の値下げにより減収 コスト低減と新製品発売等により増益 食品事業 : 連結対象子会社の減少と畜産物相場下落で減収 子会社の営業利益増加により増益
	トピックス	飼料事業 : 北九州工場（水産飼料新工場）が3月末に稼働開始 食品事業 : 食品リサイクルビジネスの取組み拡大 海外事業 : ベトナム畜産飼料事業で販売拡大に対応した設備増強を決定 その他 : CSR活動（食育教室など）の取組み



2017年3月期 決算実績

畜産飼料の販売価格は四半期毎に見直しを行う

- ▶ 製品原価における原材料費率は8割強
- ▶ 原料の4割強は輸入とうもろこしが占める
- ▶ 輸入原料の価格動向に基づいた配合飼料価格安定制度による基金の発動判定が四半期毎に行われる



とうもろこし 輸入価格(円/トン)	半期平均	25,911	23,867	20,715	21,565
	通期平均	24,889		21,140	

(とうもろこし輸入価格:財務省貿易統計「品別国別表」)

2017年3月期 決算概要

(百万円、%)

	2016.3期		2017.3期		
		構成比		構成比	前期比
売上高	228,903	100.0	207,920	100.0	▲ 9.2
売上原価	204,769	89.5	182,917	88.0	▲ 10.7
販管費	20,641	9.0	20,171	9.7	▲ 2.3
営業利益	3,492	1.5	4,831	2.3	+ 38.3
経常利益	3,734	1.6	5,131	2.5	+ 37.4
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,308	1.0	3,937	1.9	+ 70.6
設備投資	3,778	—	5,020	—	+ 32.9
減価償却費	2,096	—	1,855	—	▲ 11.5

- 売上高 : 畜産飼料の価格改定（値下げ）により減収
- 営業利益 : 統合シナジーの最大化等によるコスト低減、新製品の積極的な市場投入を主因に大幅増益
- 当期純利益 : 特別利益の増加、税金費用の減少
- 設備投資 : 北九州工場設立等、積極的な投資

2017年3月期 セグメントの状況



FEED ONE

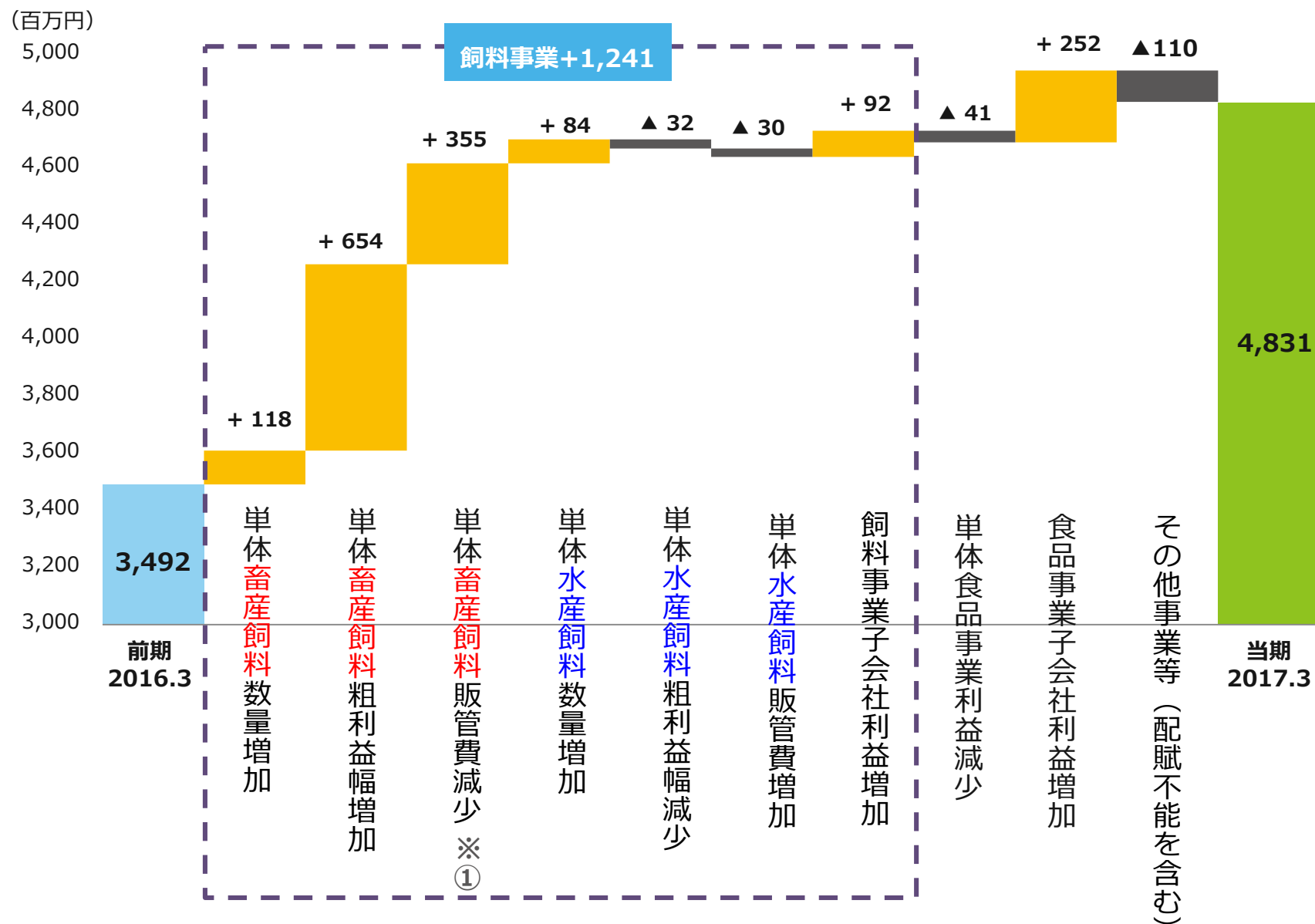
(百万円、%)

		2016.3期	2017.3期		
			前期比	コメント	
飼料事業	売上高	164,156	149,513	▲ 8.9	・数量増加(+0.9%)、価格低下(▲9.8%)
	セグメント利益 (注)	4,684	5,925	+ 26.5	・畜産飼料、水産飼料共に増益※次頁で説明
		(4,882)			
食品事業	売上高	61,740	55,461	▲ 10.2	・子会社売却による減収(▲4.5%)、畜産物相場下落による減収(▲4.2%)、数量減少(▲1.5%)
	セグメント利益	669	880	+ 31.5	・コスト低減、生産効率改善(+27.5%)、
		(690)			・赤字子会社の売却(+4%)
その他	売上高	3,005	2,944	▲ 2.0	・セグメントの変更(飼料事業へ)
	セグメント利益	360	365	+ 1.4	・ほぼ横ばい

(注) 2016.3期のセグメント利益は配賦基準を補正したもの () 内が2016年5月11日開示数値

販売数量 (前期比)	畜産飼料	330万トン	+0.8% (牛用+2.7%、豚用+1.2%、ブロイラー用+2.1%、採卵鶏用▲1.8%)
	水産飼料	8.4万トン	+3.8% (海産魚用+2.3%、淡水魚用+14.4%)

セグメント利益の増減要因



※① 安定基金負担金減少+260、貸倒引当金減少+180 等

2018年3月期 通期 業績予想

(百万円、%)

	2017.3期		2018.3期		
	通期実績	構成比	通期予想	構成比	前期比
売上高	207,920	100.0	217,200	100.0	+ 4.5
売上原価	182,917	88.0	191,700	88.3	+ 4.8
販管費	20,171	9.7	20,700	9.5	+ 2.6
営業利益	4,831	2.3	4,800	2.2	▲ 0.6
経常利益	5,131	2.5	5,200	2.4	+ 1.3
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,937	1.9	3,600	1.7	▲ 8.6
設備投資	5,020	—	4,700	—	▲ 6.4
減価償却費	1,855	—	2,200	—	+ 18.6

- 売上高 : <前提> 飼料事業の販売数量増加 ※次頁で説明

販売価格は（畜産飼料1－3月実績ベース、水産飼料10－3月実績ベース）を使用

- 営業利益 : 先行投資（北九州工場）等の償却負担増によりほぼ横ばい
- 当期純利益 : 税金費用の増加等
- 設備投資 : 主に飼料工場に対し設備老朽化への対応に加え、生産性向上・品質向上を目的とした戦略投資を計画

2018年3月期 セグメント別予想

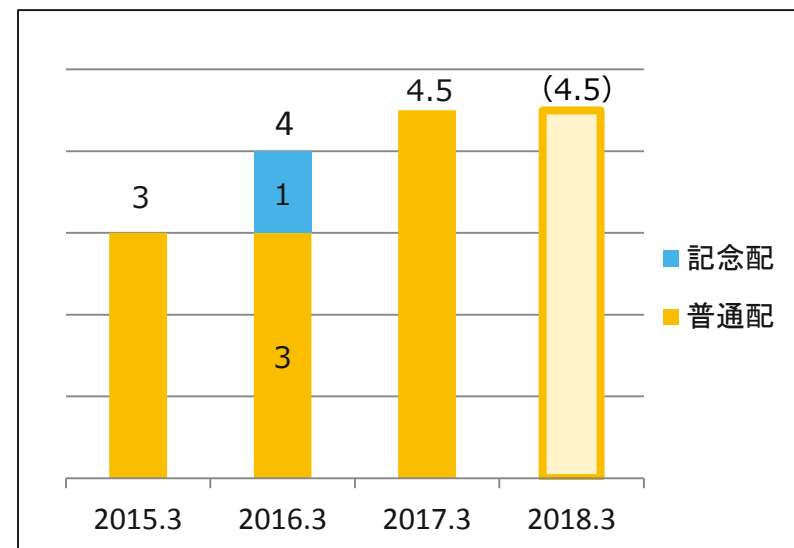
(百万円、%)

		2017.3期	2018.3期		
			通期予想	前期比	コメント
飼料事業	売上高	149,513	159,000	+ 6.3	・ 価格要因 (+4.0%) ・ 数量要因 (+2.3%)
	セグメント利益	5,925	6,500	+ 9.7	・ コスト改善等 (+7.2%) ・ 数量要因 (+2.5%)
食品事業	売上高	55,461	55,100	▲ 0.7	・ 数量要因 (+1.2%) ・ 農場事業 (▲1.3%) ・ 相場要因 (▲0.6%)
	セグメント利益	880	850	▲ 3.4	・ 数量要因 (+3.4%) ・ 農場事業 (▲4.5%) ・ 相場要因 (▲2.1%)
その他	売上高	2,944	2,900	▲ 1.5	・ 前期 賃貸資産売却 (▲2.5%) ・ 関連機材販売拡大 (+1.0%)
	セグメント利益	365	300	▲ 17.8	・ 賃貸資産売却等

販売数量 (前期比)	畜産飼料	337万ト	+ 2 % (牛用 +3 %、豚用 +2%、ブロイラー用 +6%、採卵鶏用±0%)
	水産飼料	9.2万ト	+ 9 % (海産魚用 +11%、淡水魚用▲4%)

実績・予想

	2015.3期	2016.3期	2017.3期	2018.3期 通期予想
配当 (1株当たり)	3円	4円※	4.5円	(4.5円)
配当性向	31.0%	34.1%	22.5%	-
DOE (純資産配当率)	3.0%	3.0%	3.1%	-
時価総額 (期末株価)	225億円 (114円)	239億円 (121円)	391億円 (198円)	-



(※) 普通配当3円 + 記念配当1円

株主還元方針

長期的発展の礎となる財務体質強化のための内部留保の充実と安定配当を基本として、連結配当性向25%以上を目標と致します。

内部留保金は、将来にわたっての競争力を維持・成長させるための投資資金として有効に活用する方針です。



中期経営計画への取組み状況

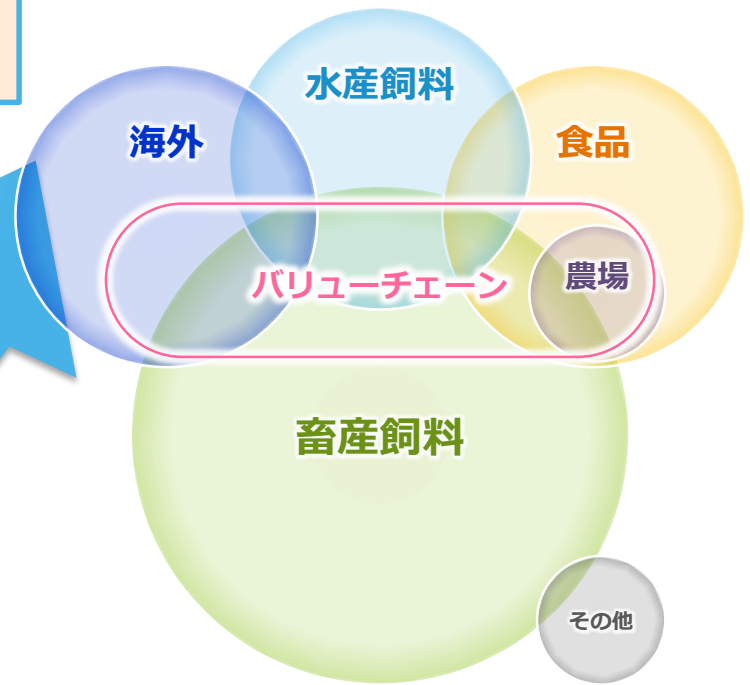
お客様の最強のパートナーとして
業界全体の持続的成長に貢献するリーディングカンパニー



統合元年（2015.3期）

収益拡大

「畜産飼料」「水産飼料」
「食品事業」「海外事業」
を収益事業の4本柱に



2025.3期

第1次中期経営計画

第2次中期経営計画

第3次中期経営計画

中期経営計画 進捗状況	2016.3期 実績	2017.3期 実績	2018.3期 計画	2018.3期 (中計)
売上高 (百万円)	228,903	207,920	217,200	* (250,000)
経常利益 (百万円)	3,734	5,131	5,200	(4,800)
ROE	8.7%	13.7%	-	(10%)

変革期

発展期

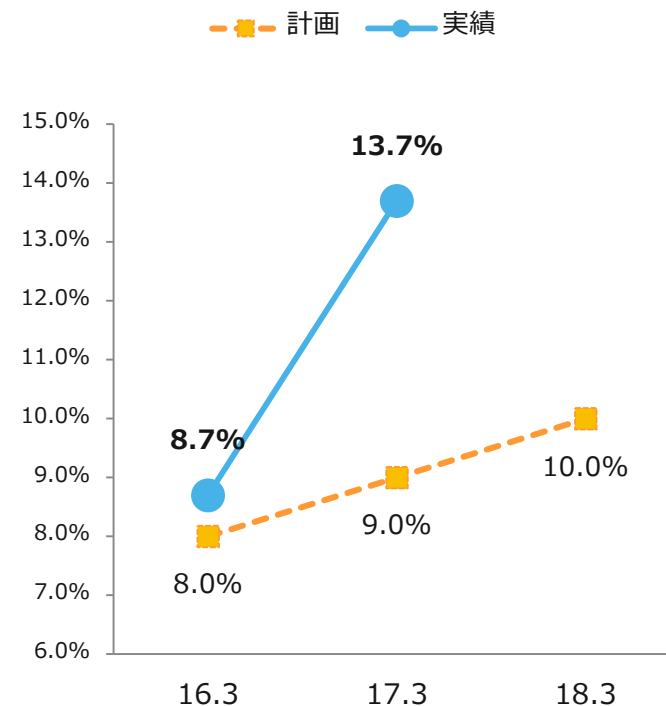
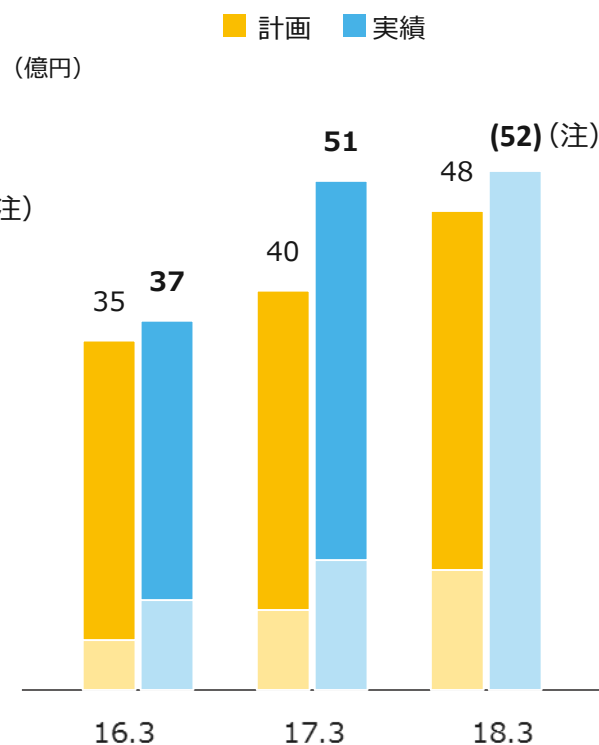
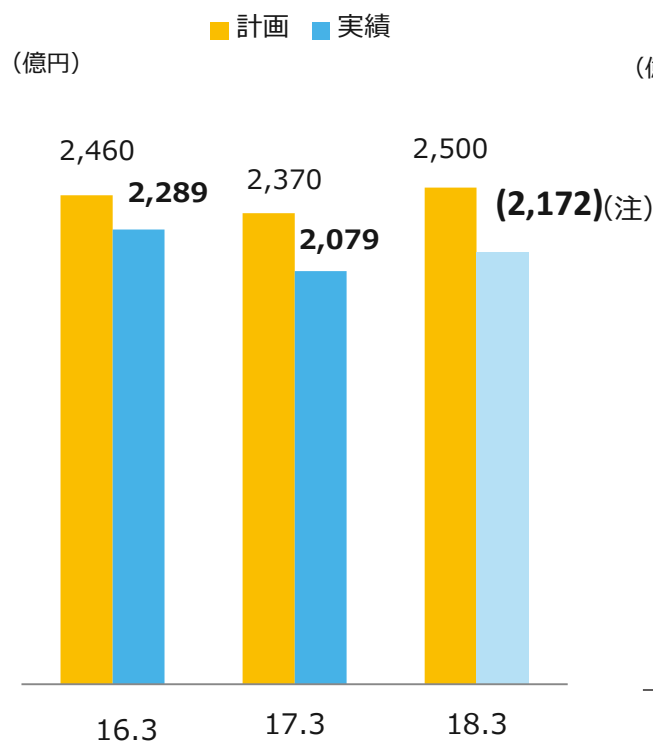
(*2016年5月に修正したもの)

2017.3期は、継続的なコスト低減と新製品の販売等により経常利益は計画を大幅に上回る

売上高

経常利益

ROE



(注) 2018.3期 (予想) について

- ①売上高：畜産飼料の価格は原料代予想を基に四半期毎に価格改定を行っているため、直近の販売価格を勘案した数値に修正しております。
- ②経常利益：前期で当初中計目標を達成したため、48億円から52億円に修正しております。

(注) NETシナジー = (統合シナジー) - (統合コスト)

統合シナジー

▶ 統合迅速化の効果により、中期経営計画で想定したシナジーを1年前倒しで達成

統合シナジー (経営統合～2017.3末)		達成度
調達 部門	■ 統合によるスケールメリット及び購買条件改定による原材料購買コスト低減	◎
	■ 原料共通化による購買コスト低減	○
生産 部門	■ 外部委託生産の自社工場内製化による製造コスト低減	◎
間接 部門	■ 間接部門におけるコスト低減	◎

今後、更に取り組んでいく施策	
生産 部門	■ エリア毎の生産体制の再構築
	■ 北九州工場をフル活用した水産飼料の販売拡大
その他	■ 人員の最適再配置

各事業戦略の進捗状況

		具体策	達成状況	今後の課題
飼料事業	畜産飼料	研究開発体制の統合により、製品開発力を強化	◎	■ 生産体制の再構築 ■ 品質保証体制の強化 （工場ISO22000認証取得）
		戦略マーケットへの集中配置による営業力の強化	○	
		販売チャネルの共有と相互販売による販売シナジーの拡大	○	
	水産飼料	市場ニーズにマッチした低魚粉飼料の販売拡大	○	■ 北九州工場を活用した数量及び利益拡大 ■ クロマグロ専用飼料の開発 ■ 海外マーケットへの販売拡大
		稚魚用飼料の販売拡大	◎	
		水産バリューチェーンの構築による販売拡大	○	
食品事業		統合による食品事業の再構築	○	■ ブランド生産物の商品開発（加工品の取扱い拡大） ■ 食品リサイクルビジネスの推進
		産地から一貫したブランド畜・水産物製品の開発・販売	○	
		販売ルート、取り扱いアイテムの増加による販売拡大	○	
海外事業 その他		〈海 外〉既存事業（ベトナム・インド）の早期収益化に向けた取組み	○	■ 生産体制の強化及びオペレーションコストの低減 ■ 東南アジア圏への拡張
		〈海 外〉新規海外案件の開拓	△	
		〈その他〉統合による管理コストの削減	○	■ BPR（※）の推進

※BPR：Business Process Re-engineering（業務改革）

強化された製品開発体制を活かし、計画通り新製品の投入を継続

▶ 顧客の問題解決を図り、更なる成長を目指す



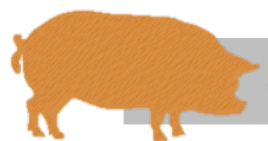
(計画) 6銘柄

6銘柄
新発売

ex) ファイブギアドロップ
プレミアムワンミルク など

使用者様の声

食いつきが良く、積極的に
ロボットに入るようになった



(計画) 6銘柄

6銘柄
新発売

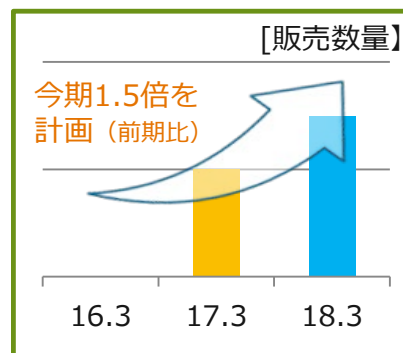
ex) ママコロシリーズ
バリバリシリーズ

使用者様の声

以前から使用しているが
成長効率が上がったように感じる

牛

提案型の新製品 “業界初の搾乳ロボット専用飼料”
ファイブギアドロップ (特許取得製品)

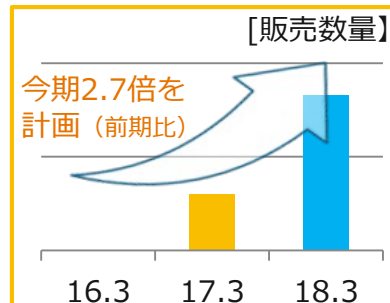


- ・ 2016年10月の販売開始以降、顧客の新たなニーズを取り込み拡販が進んでいる。
- ・ 発足したプロジェクトチームを中心に情報収集力を活かし、販売拡大を図る。

※搾乳ロボット
人の手を使わずロボットが
全自動で搾乳する機械

豚

子豚の成長に大きく関わり、技術力を求められる飼料
新製品を投入し、人工乳製品の販売拡大



- ・ 戦略製品である人工乳ステージに新製品を投入し販売拡大を後押し。

ママコロシリーズ

当社の技術を集結したフラッグシップ
モデル (2016年12月販売開始)
コンセプトは“腸から子豚を育てる”

* グラフは「ママコロ」の推移

新工場2017年4月本格稼働～海水面養殖マーケットでのシェアアップを図る～

高品質

- ✓最新製造機器の導入
→製品ラインナップの拡充
(粉化抑制, 高油脂添加, 歩留り改善)

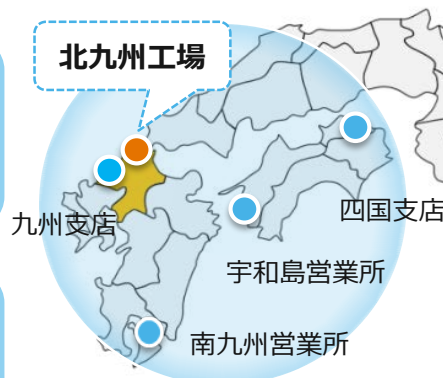
高効率

- ✓時間当たりの生産能力国内トップクラス
- ✓主要マーケットに近い立地
→最短経路での飼料供給、迅速な対応

省力

省エネ

- ✓自動倉庫の設置
- ✓電動フォークリフト、集塵機、脱臭機
→環境汚染や社員の健康にも配慮



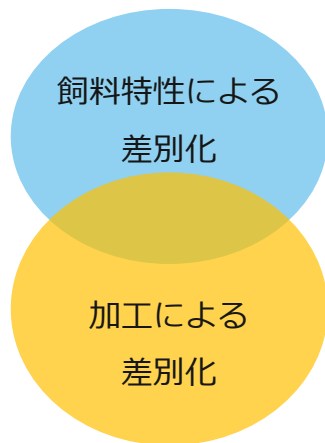
- ◆ 竣工式を5/26に開催
(参加人数) 300名
(出席者) 販売店、生産者
など



差別化畜産物の拡充による増益

- ▶ 相場に左右されにくい差別化製品を拡大することで収益の安定化を目指す。

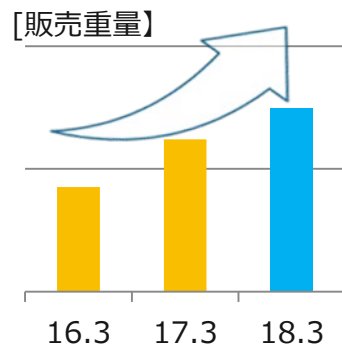
両輪で取組む



◆飼料特性による差別化

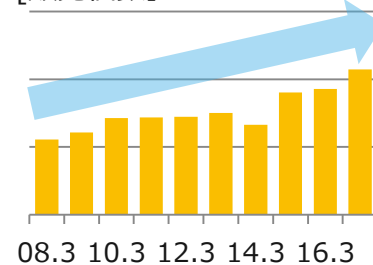
- 〈銘柄豚の販売拡大〉
- 17.3期は+14% (前期比)
 - 今期も+8%の伸長を目指す

ex)長寿豚
麦主体の配合飼料に海そう類粉末を添加給餌。コクと旨みをあわせもつ



◆加工による差別化 (マジックパール)

[販売個数]



モンドセレクション2014
銀賞受賞

- 味付きゆで卵 ■ 全国のコンビニ、駅の売店で販売
- 1979年発売開始のロングセラー商品

食品リサイクルビジネスの拡張 (首都圏に続き九州でも開始)



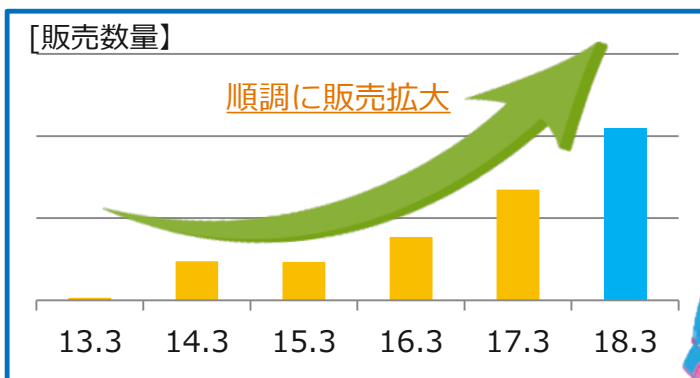
未利用資源の有効活用

×
持続性のあるビジネス

×
新しい価値の創出

ベトナム 畜産飼料事業 販売数量増加に対応し設備を増強

- ▶ 順調に拡販が進み、収益体質への転換が図られた。
- ▶ 今期は、更に販売エリアを拡大、生産能力を増強し事業規模を拡大する。



17.3期は16.3期比175%
18.3期は155%を計画（前期比）

主要マーケット地区での
認知度を高め、販売数量
拡大を加速していく

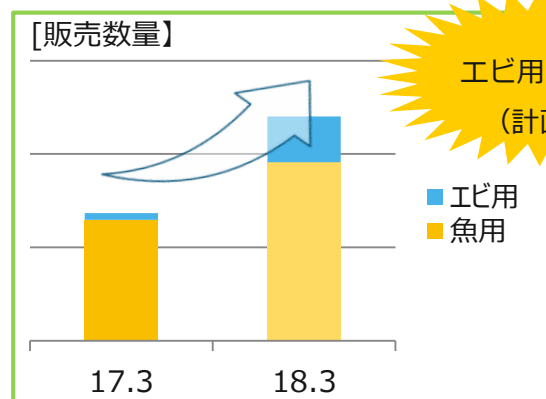


インド 水産飼料事業 販売拡大への取組み

- ▶ 操業1年目の2017.3期は製造・販売両面での課題を一つ一つ改善。
- ▶ 今期はエビ用配合飼料を主軸に販売拡大を見込む。

✓ 拡大戦略

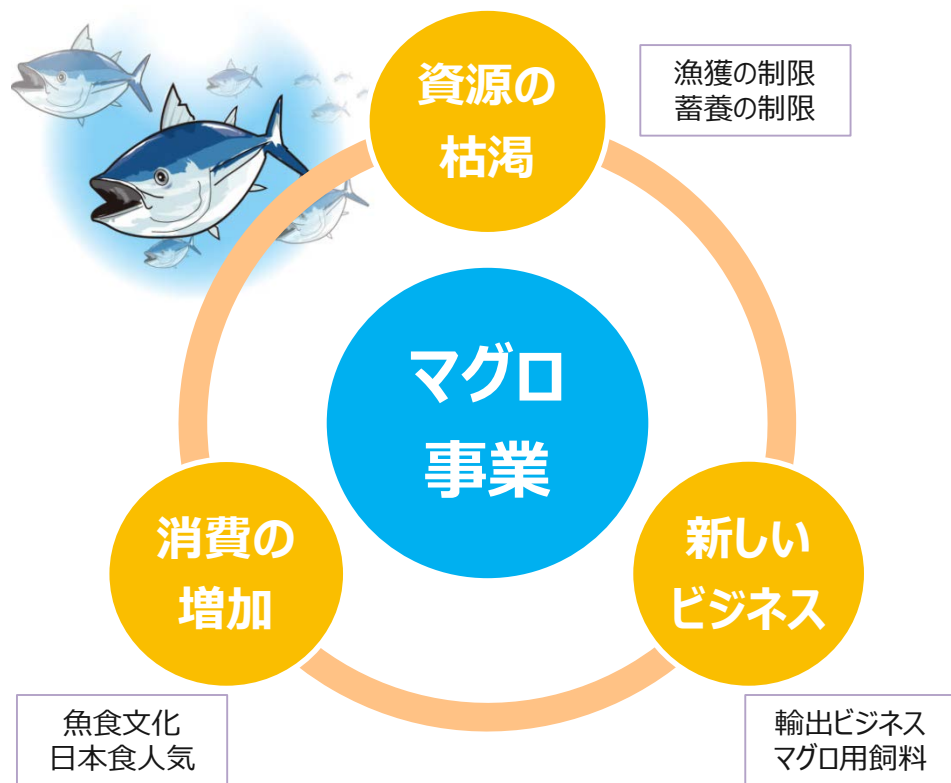
- ① 生産成績の優位性を基にした販売活動（バナメイエビ）
- ② 製品ラインナップの拡充を図る（プレミアム、スタンダード）
- ③ 対象品種を広げる（ブラックタイガーなど）



エビ用は7倍
（計画）

取組みの背景と目指すゴール

進捗状況



- 天然を上回る高品質な完全養殖クロマグロの安定供給
- 配合飼料開発による新市場開拓
- グローバルな事業展開の足掛かり



- 生産効率は徐々に改善
- 配合飼料の給餌割合を増やす取組みも実施中
⇒ 養殖技術の向上と飼料効率の向上が両輪

当社のコーポレートスローガン

“おいしさのみなもと”を知ってもらおう

目的

- ✓何気なくしている食事を一度考えてもらおう
- ✓美味しい！の再発見
- ✓料理に親しんで食に興味を持ってもらおう

内容

- ✓肉や魚の栄養を知ろう
- ✓お店で売っている肉、魚はどこからくるの？
- ✓国産と輸入の違いって何だろう？

実績

《食育教室》実施校：4校（小学校1校，高等学校3校）
参加人数：総数100名（保護者含む）
《子供参観日》1回（フィード・ワン本社）



地元紙にも掲載されました



配合飼料に興味深々



初めてのフライパン



ブリを丸々1本解体ショー



おいしさのみなもと

FEED ONE

本資料に記載された意見や予測等は資料作成時点での当社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではありません。

また、様々な要因の変化により実際の業績や結果とは異なる可能性があることをご承知おき下さい。